

大人が絵本を 第1回 連載を



司書・読書アドバイザー 安藤 宣子*
小児歯科医師 濱野 良彦**

* 絵本と図鑑の親子ライブラリー ビブリオキッズ(福岡市)
** 医療法人元気が湧く 理事ファウンダー

○ 大切なこと

絵本は、小児医療の現場で必要とされるツールです。絵本の中のお話を楽しく読み解くだけではなく、精神療養を目的とした活用は多くの分野で導入され、すでに絵本は小児医療現場でも好感をもって受け入れられているようです。すなわち、今日では、私たちが考えている以上に、絵本の潜在力に関して科学的に検証されています¹⁾²⁾。神経生理学者の泰羅氏は、喜怒哀楽などの感情を司る大脳辺縁系を「こころの脳」と名づけ、「読み聞かせ」は子どもに人間の基本的な感情を疑似体験させ、こころの脳を刺激し、人との信頼関係が深まるとしています³⁾。

このような潜在力を知った上で、本来の絵本の力を十分に発揮できていない医療現場が多いことを、私たちは経験的に知ることができました。つまり、絵本は子どもの遊び道具の1つとして、待合室の備品に甘んじているということなのです。子どもの医療現場において、絵本が多岐にわたり活躍できることの再評価が必要とされる時代の到来に気付かされると、その気付きにより、子どもたちと絵本と保護者と、そして私たち小児歯科医療従事者とのつながりが、サークル状に楽しい相互関係ができるようです。その起爆点は「大人が絵本を手にするとき」で、このことが大切なこととなります。

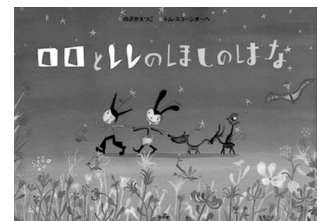
○ 「大人が絵本を理解する」には

絵本の本質は、絵画が主体なのですが、文字の読めない乳幼児は、絵からおはなしを読みとります。つまり、子どもは絵を読んでいるのです。絵本は、「絵で物語る絵本」と、「ことばで物語る絵本」とに分けられるのですが、前者は、ことばが補助的ある

いは追加的な役割を果たすことで、絵はことばを広げ、ことばの意味を明らかにし、結果としてことばにとって代わることができるのです。松居直氏は、「絵というのは、すべて言葉の世界で、言葉にならない絵はない。子どもたちは絵を読む。絵の中にある言葉を読む。」と論じています⁴⁾。一方の「ことばで物語る絵本」は、ことばが物語を構成し、絵が物語を詳しくすることで絵本の持つイメージを広げてくれるのです。

連載の初めに紹介する絵本は、『ロロとレレのほしのはな』（トム・スコーンオーへ絵、のぞかえつこ作、小学館）です。この絵本は、「絵で物語る絵本」です。絵がことばを広げ、ことばの意味を明確にしてくれています。

本書は、絵画「星々のきずな」から生まれた絵本です。この絵画は、2012年、ヨーロッパ5カ国で「震災と原発事故の世界から、私たち・子どもたちの未来を考える」をテーマとして、イラストレーターたちによる原画展「手から手へ」展（手展）のために描かれたものです⁵⁾。絵本作家の降矢なな氏が、世界の絵本作家をまとめ、展覧会を通しての支援活動から制作された『ロロとレレのほしのはな』は、「手から手へ、私たちのつながりが明るい未来を紡ぎ出していきますように」との願いを込めて、トム・スコー



『ロロとレレのほしのはな』トム・スコーンオーへ絵、のぞかえつこ作、小学館

手にするときは！ 始めるにあたり

企画 濱野 良彦
構成 木須 信生 ※※※

※※※ 絵本と図鑑の親子ライブラリー ビブリオキッズ
(福岡市)

ンオーヘ氏の絵画に、氏と親しい野坂悦子氏が文を付けて作られた絵本です⁶⁾。

ノンフィクション作家の柳田邦男氏は、「大人が自分のために読む作品としての絵本という意識が大事で、絵本に自分が興味を感じたり、感動したりすることなしに、子どもにいくら語りかけても、本当は伝わらないのではないかと説いています⁷⁾。

大人が絵本に興味をもち、絵本のバックグラウンドやストーリーを知ることで、一冊の絵本が発するメッセージを深く受け止めることが大切なのです。柳田氏は「絵本を子どもに読むとき、大人の解釈を必ずしも言語化する必要はなくて、絵本の世界を子どもが自分なりに感じられればよい」とも明言し⁸⁾、大人が、今一度改めて、絵本と向かい直すことを提起しているのです。

○ 作家を知る

「手展」の発起人・降矢なな氏は、スロバキア在住の絵本作家です。1992年～2000年にスロバキア共和国ブラチスラバ美術大学版画科へ留学し、ドゥシャン・カーライに師事して石版画を学びました。その後は本のイラストレーション、版画、絵画を制作し、現在までに約60冊の絵本・児童書の挿絵を手掛けています。代表作は『めっきらもっきらどおんどん』（福音館書店）です⁹⁾。スロバキアに20年以上在住し、日本から依頼される企画の方が魅力的だという理由で、主に日本国内向けの絵本を出版しています。現在はペジノックという街に、夫でスロバキア人画家のペテル・ウフナル氏と14歳の娘と暮らし、ウフナル氏もまた「手展」参加者の一人です。

そして、前掲の『ロロとレレのほしのはな』の画



医療法人元気が湧く主催によるビブリオキッズ・ビブリオラボでの「手展」

家、トム・スコーンオーヘ氏は、1973年生まれ、ベルギーのイラストレーターです。本書のタッチにも見られるように、明るい色や重厚な不透明色、動く人物を描くことが特徴的です⁵⁾。

この「手展」はヨーロッパ巡回後、2013年3月1日の安曇野ちひろ美術館を皮切りに、東京、島根、横浜を経て、2014年1月29日から2月23日まで、九州では唯一、私たちの医療法人元気が湧く主催で、ビブリオキッズ・ビブリオラボならびに福岡市総合図書館の2会場で開催されました。その後、京都、福島を回り、本年8月の北海道展で終了しました。

このように、作家の経歴や、絵本ができるバックグラウンドなど詳細を知ることが、「大人が絵本を理解する」ための入口として、1つの選択方法です。臨床心理学者の河合隼雄氏は、「家庭環境、生育歴による根の深い独特の文化が作品に影響するという絵本作家の背景を知ったときに、その作品世界に新たな気づきが生じ、また興味をもつ」と言っています¹⁰⁾。大人が絵本に向かい直すとき、絵本作家と向きあってみることも大切な要素です。



連絡先 福岡市南区大橋3-2-1 2F
絵本と図鑑の親子ライブラリー ビブリオキッズ
TEL 092-557-3272 URL <http://bibuliokids.jp>

ビブリオベイビー
**Bibli
Baby**

○ 私たちができること。それは…！

私は、看護学校図書館員15年と学校司書6年、その傍らで続けた読書アドバイザー活動、そして現在の、医療法人が開設した親子図書館司書、すべての司書経験において、小児医療の現場で絵本が活躍できる場面を多く見てきました。2歳児に友だちの「死」を受け入れ、心を落ち着かせるときも、あるいは自閉症児へ自然脱落に備えて「歯が抜けること」「自分の身体に変化が生じること」を受け入れてもらうときも、絵本はその時折に大きな力を発揮し、絵本の底力を見てきたのです。

それらの経験から、医療という「いのち」の現場における司書の介添えは、本の持つ力をより一層強くするので。

子どもの心や身体の発達段階があるように、絵本や読書全般についても同じような発達段階があります。その両知識に精通し、個々の子どもや親子に合わせて支援展開できる司書は、小児医療現場に必要なコ・メディカルだと考えています。私たちができること、それは、小児歯科医師、コ・デンタルスタッフ、そして司書が共に手を携えて、小児歯科医療の臨床

現場に、絵本を活かしていくことだと考えます。

文 献

- 1) バトリシア・クール：赤ちゃんは語学の天才、NHK Eテレ スーパープレゼンテーション，日本放送協会，2013.7.29.
- 2) 濱野良彦：子どもの歯科医療における絵本力を考える，小児歯科臨床 19(5):55-58, 2014.
- 3) 泰羅雅登：読み聞かせは心の脳に届く，くもん出版，東京，pp.12-18, pp.30-35, pp.47-57, 2009.
- 4) 松居直：絵本は大人がこどもに読むもの，河合隼雄，松居直，柳田邦男：絵本の力，岩波書店，東京，pp.51-57, 2001.
- 5) 降矢なな監修：From Hand to Hand 一手から手へ，PERFEKT, Slovenskej republiky, pp.4-5, 2012.
- 6) のぞみえつこ作，トム・スコーンオーへ絵（降矢なな製作協力）：ロロとレレのほしのはな，小学館，東京，2013.
- 7) 柳田邦男：大人こそ絵本を，河合隼雄，松居直，柳田邦男：絵本の力，岩波書店，東京，pp.85-87, 2001.
- 8) 河合隼雄，松居直，柳田邦男：絵本にどうかかわるか，絵本の力，岩波書店，東京，pp.157-162, 2001.
- 9) 長谷川摂子作，降矢なな画：めっきらもっきらどおんどん，福音館書店，東京，1985.
- 10) 河合隼雄，松居直，柳田邦男：喪の仕事，絵本の力，岩波書店，東京，pp.168-179, 2001.

「東日本大震災後に出版された3・11関連推薦絵本」

- | | |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・『雨があがって』 駒形克己作 (ONE STROKE) ・『かあさんのこもりうた』 こんのひとみ作 いもとようこ 絵 (金の星社) ・『あのひのこと Remember March 11, 2011』 葉祥明 絵・文 (佼成出版社) | <ul style="list-style-type: none"> ・『いつか帰りたいぼくのふるさと～福島第一原発20キロ圏内から来たねこ』 大塚敦子 写真・文 (小学館) ・『奇跡の一本松～大津波をのりこえて』 なかだえり 絵・文 (汐文社) ・『ふくしまからきた子』 松本猛，松本春野作 松本春野 絵 (岩崎書店) |
|--|---|